

[036] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10234>

出版情報：語文研究. 36, 1974-02-28. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

細かい検討と独特の見解に基いて説きあかしてゆく著者の語り口は、読む者をひきつけて、はなさないであらう。

我々は国文学者として、いかにあるべきか、どのような心をもつて古典と接してゆけばいいか、について語る「ある高僧の逸話」をもつて、この書はしめくくられている。この一文などは、あるいは不要という人がいるかもしれない。いや、これに限らず、著者が各論文の中で、ともすれば述べられる、文献学者への批判をはじめとする、種々の明瞭な見解についても、言わずにおいた方が無難だったのではないかと思われる方が必ずいよう。しかし、著者としては、まさに、他の何よりも、それらの見解をこそ、述べられたかったのであらうと思う。また、この書の何よりの魅力も、おそらくは、そこにある。著者の全人格と思想とが、生のまま提示され、著者自身の論と入りまじって一体となつて、我々に問いかかけ、迫つて来るのである。

(昭和四十八年 桜楓社刊
二二二八頁 三八〇〇円)

◇ 学 会 集 報

▼講義題目 昭和48年度第一学期

(大学院)	国語学特研	国語学史(阿刈霞)	春日 教授
(大学院)	全 演習	国語資料の研究	春日 教授
(大学院)	全 特講	日本文法の諸問題	春日 教授
(学部)	全 演習	万葉集 卷七	春日 教授
(大学院)	全 特研	音韻論	奥村助教
(大学院)	全 演習	国語学の諸問題	奥村助教
(学部)	全 特講	九州諸方言の系譜	奥村助教
(学部)	全 演習	近世語 天の網島	奥村助教
(大学院)	全 演習	平安朝文学研究法	今井 教授
(学部)	全 特講	雲州消息(明衡往来)	今井 教授
(学部)	全 演習	平安女流文学の基盤	今井 教授
(学部)	全 演習	詞花懸露集	今井 教授
(大学院)	全 特研	近世文人伝記研究	中野助教
(学部)	全 演習	貞門俳諧	中野助教
(学部)	全 特講	近世文学の背景	中野助教
(学部)	全 演習	戯作(滑稽本類)	中野助教
(大学院)	全 特研	近代詩研究	重松 教授
(学部)	全 演習	近代小説作品研究	重松 教授
(学部)	全 講義	昭和文学史の諸問題	重松 教授
(学部)	全 臨講	韻学史と国語史	重松 教授

九教養部大
女子大
東京
東大
馬淵助教

▼講義題目 昭和48年度第二学期

(大学院)	国語学特研	国語学史	春日	教授
(大学院)	全 演習	国語学資料研究	春日	教授
(大学院)	全 特講	日本文法―用言についての諸問題―	春日	教授
(学部)	全 演習	万葉集 卷八	春日	教授
(大学院)	全 特研	音韻(アクセント)史	奥村助教	教授
(大学院)	全 演習	国語学の諸問題	奥村助教	教授
(大学院)	全 特講	国語史と方言	奥村助教	教授
(学部)	全 演習	近世語	奥村助教	教授
(大学院)	国文学特研	平安朝文学研究の諸問題	今井	教授
(大学院)	全 演習	明衡往来	今井	教授
(学部)	全 特講	王朝和歌論	今井	教授
(学部)	全 演習	源氏物語 薄雲卷	今井	教授
(大学院)	全 特研	近世文人伝記研究	中野助教	教授
(学部)	全 演習	貞門俳諧	中野助教	教授
(大学院)	全 特講	近世文学の背景	中野助教	教授
(学部)	全 演習	戯作(滑稽本類)	中野助教	教授
(大学院)	全 特研	近代文学研究の方法	重松	教授
(大学院)	全 演習	近代作家研究	重松	教授
(学部)	全 演習	近代の小説	重松	教授
(学部)	全 講義	昭和文学の諸問題	福岡助教	教授
(学部)	全 臨講	中世和歌	大久保助教	教授
(学部)	全 臨講	語彙論と語彙史	大阪倉	教授

▼二十三回西日本国語国文学会

昭和48年9月22・23日 於鹿児島県立短期大学

研究発表(本学会員関係のみ)

河原院の文学伝統と宇多天皇

行脚俳諧師石蘭と『梅の会集』

江家の歌人―嘉言と匡衡―

西原梭江小伝

平家物語における義仲像

九州方言の区画と語彙―日本言語地図による―

公開講演

古事記の訓法について

▼訪書旅行 昭和48年11月4日、6日

三年生九名が平戸の松浦資料博物館、島原の松平文庫を訪問。

引率は 平戸、中野先生、島原、今井先生。

▼卒業論文構想発表会 昭和48年11月24日 於文学部会議室

▼新入会員歓迎会 昭和48年11月24日

本年度進学生一四名を迎え、うを新にて歓迎会を挙る。

▼会員消息

本会顧問、九州大学名誉教授福田良輔先生は、昭和四十八年十二月一日に御逝去されました。

謹んで先生の御冥福をお祈りいたします。

告別式は十二月七日、バプテスト東福岡教会にて、

中村幸彦博士を葬儀委員長として行われました。

い。だが、それはもはや兼輔自身の問題ではない。
この稿は兼輔の伝記を作ることを目的とした。それ故に歌人
という側面はあまり重視していかない。文学史の中に据えるには
かなりの補筆が必要であろうと思う。

(完)

註

- 1 承保本は「後撰和歌集校本と研究」(小松茂美)、他は「後撰和歌集総索引」(大阪女子大編)所収本文
- 2 忠平の左大将、兼輔の左中将が重なるのは、延喜十九年から延長四年まで。「紀略」によれば、延喜十九・二十一・二十二・延長二・三・四年に相撲節会あり、「貞信公記」では延喜十九年八月八日、延長二年八月十四日、同四年八月九日に還饗の記事がある。
- 3 「後撰和歌集の伝本」(女子大文学 国文篇 17号)
- 4 奥村恒哉「古今集後撰集の諸問題」 杉谷寿郎「後撰和歌集諸本の研究」など
- 5 撰集の事情については、樋口芳麻呂「新撰和歌の成立」(国語と国文学 昭和42年10月号)、村瀬敏夫「新撰和歌の召命」(古今和歌集の基盤と周辺 第八章第五節) 参照
- 6 承平元年九月二十日行われ、兼輔も参会したが、定方と二人のみ堂に入らなかつたという(醍醐寺雜事記)。
- 7 「聖徳太子伝暦の研究」(「仏教文化大講座」昭和9年)
- 8 「室町以前成立聖徳太子伝記類書誌」(「聖徳太子論集」平楽寺書店 昭和46年11月)
- 9 「三条右大臣集の成立と境中納言兼輔」(言語と文芸 昭和39・1)

受贈図書 48年7月〜12月

詩と土着

平家物語総索引

八月の雲の下

寛政期諸国俳人書簡集(義仲寺叢書 第3輯)

大内初夫・田中道雄・石川八朗

万葉集真解(東歌・防人歌 全)

聚分韻略の研究 付古本四種影印 慶長版総索引

高橋公磨
奥村三雄

境 忠一

笠 栄治

青山光雄

『打聞集研究と本文』所収

⑨ 「金沢文庫蔵『熊鹿因縁』のこと―説話と仏教の接点および戦記文芸の文体

― 永井義憲 『大妻国文』2号

⑩ 巻九だけを取りあげて、強いてその構成らしきものをあげるとするならば、

第三条「僧正増命事」を例外として第一条から第九条までが在俗者の話、第十条から第十六条までが僧侶の話、特にそのうちの第十二条から第十四条までが仏事法会の由来説話にもなっている。第十七条から第二十五条までは第二十三条「成通卿家山王咎忌事」を例外としてごく下級の僧の話となっている。つまり、第十条から第十六条までの七条、その中でも法華八講、布薩、勸学会の由来を述べた第十二条から第十三条を頂点としているものと思われる。

⑪ 日本古典文学大系『平家物語』上解説

受贈雑誌 48年7月～12月 ①

- 文化と言語(札幌大) 5巻1/国文学雑誌(藤女子大) 14/学園論集(北海道大) 23/文化(東北大) 36巻4/文芸研究(東北大) 74/国語学研究(東北大) 12/一橋論叢69巻6、70巻1/5/国語と国文学(東京大) 50巻7/12/近代文学論(東京教育大) 5/国文(お茶の水大) 39/学芸国語国文学(東京学芸大) 8/国文学研究(早稲田大) 50/51/国学院雑誌74巻5/10/国学院大学日本文化研究所紀要32/文芸研究(明治大) 26/29/明治大学人文科学研究所年報13/国語国文学会誌(学習院大) 16/語文(日本大) 38/東京女子大学日本文学39/専修国文(専修大) 14/国文学踏査(大正大) 9/実践国文学4/国文目自(日本女子大) 12/学苑(昭和女子大) 403/406/成城国文学論集6/人文研究(神奈川大) 54/人文学研究(千葉大) 2(神奈川大) 7/語文論叢(千葉大) 2/人文研究(千葉大) 2
- /高崎経済大学論集16巻12/金沢大学法文学部論集20/金沢大学語学文学研究4/名古屋大学国語国文学33/名古屋大学教養部紀要17/愛知大学国文学13/可里波瀾(信州大) 9/国文研究(静岡女子大) 6/皇学館論叢6巻23/国語国文(京都大) 42巻6/11/人文学(同志社大) 120/124/125/外国文学研究(同志社大) 6/立命館文学319/330/論究日本文学(立命館大) 36/龍谷大学論集402/女子大国文(京都女子大) 69/70/国文学論究(花園大) 1/文芸論叢(大谷大) 1/語文(大阪大) 31/研究集録(大阪大教養) 21/人文研究(大阪市立大) 24巻7分冊/文学史研究(大阪市立大) 14/学大国文(大阪教育大)

- 9 全集別巻87・89頁
全集2巻546頁
- 10 和田蓮吾氏「『破戒』の史的位置」、『自然主義文学』所収119頁
- 11 岩波文庫版『破戒』解説34頁
- 12 「二つの『破戒』」18頁『文学』昭和47・1
- 13 前掲注13十川氏論文17頁
- 14 前掲注11和田氏論文113頁
- 15 「『破戒』に対する視点の問題」44頁『日本文学』昭和43・4
- 16 「破戒」、『島崎藤村必携』所収106・107頁参照
- 17 「『破戒』を評す」、『早稲田文学』明治39・5 全集別巻68頁参照
- 18 「春」と『龍士會』『趣味』明治40・4 全集6巻503頁
- 19

愛蔵雑誌 48年7月〜12月 ②

人文論究(関西学院大) 22巻3・4、23巻1 / 日本文芸研究(関西学院大) 25巻2・3 / 国文学(関西大) 48・49 / 甲南国文(甲南女子大) 20 / 研究紀要(大阪城南女子短大) 8 / 芦屋ゼミ(甲南高校) 1 / 島大國文2 / 広島大学文学部紀要32巻1 / 山口大学文学会誌24 / 山口女子短期大学研究報告27 / 香椎潟(福岡女子大) 19 / 鹿児島大学文科報告9号1分冊 / 万葉82 / 国語学93 / 国立国語研究所年報24 / 国立国語研究所報告47 / 50 / 調点語と調点資料52・53 / 日本学術会議月報14巻6 / 10 / 文献ジャーナル12巻6 / 11 / 逐次刊行物目録46年版 / 金沢文庫研究19巻5 / 8 / 肇国361 / 364 / 白路28巻7 / 12 / 王朝文学史稿2 / 軍記と語り物9 / 能 研究と評論2 / 御伽草子研究1 / 短歌研究27巻12、28巻12 / 古典と近代文学14 / 近代文学研究2 / 近代文学考1 / 海事史研究20 / 文学史研究1 / 善本写真集39・40 / 郷土文化28巻2 / 東子の文学碑II 7